

宮崎学園創立86周年

宮崎学園新聞

2025年
第9号宮崎学園
高等学校
新聞部

十月九日、宮崎学園の第八十六回創立記念式典が行われた。本校は一九三九年に宮崎女子商業学院・宮崎高等裁縫女学校として設立された。宮崎女子高等学校を経て男女共学化された二〇〇三年に宮崎学園高等学校となった。今回は本校の特色である礼法教育と校内にある泰山木の関係、長い間生徒の学習環境を支えてくださる清掃スタッフの方について取材した。

泰山木と礼法教育

本校の正門南側の花壇には泰山木たいさんぼくという木がある。この木は皇族の方がお手植えになったものである。その際には生徒が接遇の役目を務めたという。まず接遇の役目を成功させた催事について調べてみた。

泰山木はモクレン科の常緑樹だ。ビワのような大きな葉を持っており、初夏には白い大きな花を咲かせる。

昭和三十五年五月十二日、宮崎県青少年赤十字教育振興大会が本校で開催され、その際に皇族の高松宮妃殿下が来校された。その際記念として殿下がお手植えになったのがこの木である。ご来校時、殿下は校舎内の一室で御休憩なさった。その際に



▲ 泰山木の木

本校の生徒が接遇の役目を務め、見事な接遇を行ったという。この当時から礼法教育が浸透していた訳だが、当時と今では何か違いがあるのだろうか。

当時の礼法教育について、礼法担当の渡嘉敷音子先生に話を伺った。礼法教育は時代に求められることを軸に内容を変えている。当時は女子高だったこともあり、職業婦人の育成を目的とした教育が行なわれていた。

その流れが現在の「礼法」の授業に引き継がれている。泰山木も六十五年間本校の礼法教育を見守っている。今でも建学の精神「礼節・勤労」に基づいた礼法教育は続いており、その精神は今も昔も変わっていないと感じた。

現在本校では礼法教育の一環で修練実習を行っている。建学の精神に基づき言葉遣いや物の渡し方、マナーなどの社会に出た際に役立つことを七日間の職員室などでの実習を通じて学ぶことができる。

取材の中で渡嘉敷先生は「修練実習では当然報酬は出ない。その中で誰のためにやるのか考えることが大事だ。」と語っていた。礼節・勤労を意識して相手がしてほしいことを感じ取れるようよく考えながら実習を行いたい。（野田）

影の立役者

私たちがいつも使っているトイレや洗面台を清掃してくださっている清掃スタッフの富高敏子さんを取材した。

富高さんは本校が宮崎学園高等学校となった三年後の二〇〇六年からこの学校で働いておられる。朝の五時に自転車通勤し、夕方十六時までお仕事をされている。

普段は手洗い場やトイレ、壁やガラスを清掃していて、特に壁やガラスは年末に向けて三ヶ月前から計画して清掃しているというのである。

また、「その日の通勤時に汚れている場所を想定して重点的にきれいにしたり、消耗品の補充で不便がないようにしている」とのこと。やりがいと大変なことについて聞くと「やりがいには中高生の生徒さんが『いつもありがとうございます』と言ってくれること。みんなの笑顔で元気になるので大変なことはありません」と話してくださった。

昭和二十一年生まれの富高さん。いつまで続けたいかを尋ねると「生徒さんが元気に活動して、笑顔でいるのをできるだけ長く見ていたい。そのため働ける期間が続けたい」とのこと。私たちのためにい

つも頑張ってくださいっている富高さん。感謝の気持ちを忘れずに、トイレや洗面所を綺麗に使うよう心がけたい。（野田）



生徒の笑顔をみるのが楽しみで学校に来ていると語る富高さん



泰山木の隣には「永久に安らかに」と書かれた石碑がある。この石碑は在籍中に事故などで亡くなった生徒・教職員の霊を弔うために作られた石碑だそう。自分の命を大切にすることともに、関わってくださるすべての方に感謝しながら学校生活を送りたい。



▲ 永遠に安らかにの石碑